

令和6年度 小金井市立小金井第四小学校 授業改善推進プラン

1 授業改善の方針

【国語・算数共通】

「学びへの意欲」「自分の考えを表現する力」「文章を理解し整理する力」を高められる授業づくりを推進する。

2 児童の現状分析

(1) 学習状況調査(二科目とも都の平均値を下回っている中で、課題となる点)

国語	<p>正答率については、全体的に都平均を下回っており、特に「漢字の書き取り」、「相手の意図を尋ねる問題」及び「作文を伴う問題」では、最大約15%下回っていた。また、約70%の児童が、国語の重要性を理解しているものの、国語の授業が好きであると答えた児童の割合は、都平均より約27ポイント低かった。さらに、「作文を伴う問題」では、児童の無回答の割合が20%を超えるものも見られた。</p> <p>質問紙調査においては、物語文への取り組みの肯定的な回答が50%を超えており、都平均よりも高くなっていた。一方、国語全体の理解度や学習上の工夫等については都平均を下回っていた。以上のことから、「書く力」「表現する力」を高める指導を継続的に重視するとともに、「国語の学びそのものを楽しみ」と感じられる指導を工夫し、児童の国語に対する学びの意欲を高め、無回答の割合を減らしていく取組が必要である。</p>
算数	<p>算数の重要性を理解している児童の割合が70%以上、算数の授業が好きであると答えた児童の割合は、44%であり、都平均を上回っていた。しかし、理解度について尋ねる問いでは、都平均を下回り、特に「問題が解けた時に他の解き方を考えようとする」という項目は都平均から13ポイント低い約21%であった。また、「最後まで書こうと努力した」と回答する児童が約75%を超えるものの、「自分の考えを説明する問題」や、「割り算を伴う問題」、「体積を求める問題」では誤答が多かった。このことから、授業の中で「わかっていること」「求めること」などに線を引いて文章を正しく読み取る力を高めたり、単純計算を復習することができる機会を設けたりするなど「問題文を読む力や整理する力」、「自分の考えを書く力」を高めることが必要である。そして、自分の考えを発表することや他の解き方を考える機会を増やし、その活動の中で認められる経験を積み重ねることで、学びへの意欲を高めていくことが必要である。</p>

(2) 児童質問紙調査

「自分には良いところがある」・・・本校 85.6% 都平均 84.5% (都平均より1.1ポイント高)

「先生はあなたの良いところを認めてくれている」・・・本校 94.8% 都平均 89.7% (5.1ポイント高)

また、「将来の夢がある」「人が困っているときに進んで助ける」という質問に対して、いずれも都平均を上回っている。このことから、本校の児童は、概ね高い自己肯定感をもっており、自分の良さを認めてくれる大人が周囲にいるということを理解していると言える。また、算数の学習の必要性や算数の学びそのものへの意欲も高いと言える。

一方で、学習に関する項目では、都平均を下回るものが見られる。

「休日に2時間以上家庭学習を行う」・・・本校 31.9% 都平均 34.3% (都平均より1.4ポイント低)

「算数の授業の内容がよくわかる」・・・本校 77.3% 都平均 85.5% (都平均より8.2ポイント低)

本校の児童の課題として、算数の授業の理解度が十分ではなく、算数の理解の定着を図るための授業改善を行う必要がある。学習の定着を重視した指導法の改善とともに、普段の授業から「自分の考えを書く・説明する」を繰り返し、「学びへの意欲」、「自分の考えを表現する力」を高める指導を推進していく。